

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 牛久市観光アヤマ園～牛久城址

2016年2月8日発行

< 冬の自然観察 ～牛久沼沿い ①野鳥 >

皆さん、こんにちは。冬の自然観察、今回は1月21日と2月3日に、牛久沼沿いをアヤマ園から牛久城址まで往復しました。その記録を野鳥、昆虫・クモ、植物と3回に分けて報告します。



えさを探し歩くダイサギ。最大の白鷺で、首も足も細長い。夏鳥として飛来するものと冬鳥として飛来するものがある。まずは、水鳥から。アヤマ園に降りると出迎えてくれたのが、文字通り”大きなサギ”、ダイサギでした。くちばしと足の指の色で他のサギ類と見分けられます。ただし、冬と夏でくちばしの色などが変わるので、要注意です。



牛久沼を泳ぐカイツブリ。えさの魚を食べる時だけでなく、逃げるときにももぐる。ムクドリくらいの大きさしかない。



続いて、カイツブリ。小型のカモよりさらに小さく、ムクドリくらいの大きさしかありません。牛久沼では必ず見られますが、こちらに気がつくと、もぐって逃げます。

左も、牛久沼でよく見かけるオオバン。黒い体で、くちばしとおでこが白いのが特ちょう。水辺の草の茂みで繁殖します。

←黒い体に、白いくちばしとおでこ。クイナ科の仲間。



こちらはカイツブリの仲間ですが冬鳥で大きく、魚をとるときや逃げるときにはやはりもぐります。夏には頭のとっぺんに「冠羽(かんう)」とよばれる長い羽が現れることから、**カンムリカイツブリ**という名がつけましたが、冬はあまり目立たないようですね。

←日本最大のカイツブリ類で、冬鳥のカンムリカイツブリ。



冬鳥のツグミ(左)と、北海道などで繁殖し冬にこちらにやってくるアカハラ(右)。地面をつついてミミズなどを食べる

次は、林や地上に多い鳥たち。まず、ツグミの仲間^{なかま}でツグミとアカハラ。他にシロハラもいましたが、この日はうまく写真にとれませんでした。アカハラは山地や北海道、東北^{はんしよく}で繁殖し、冬には平地の林^{ふゆどり}にやってきます。ツグミやシロハラは冬鳥ですが、3種とも冬にはよく地面をつついてミミズなどのえさを探しています。特にシロハラとアカハラはよく似ていますが、腹の色がシロハラは白^{はら}っぽくアカハラは赤茶色と全く違^{ちが}うので、前から見るとはっきり^{くべつ}区別できます。



続いてホオジロの仲間^{なかま}で、**ホオジロ**と**カシラダカ**。どちらも川原^{かわら}や農耕地^{のうこうち}などの開けた場所^{ひら}で多く見られ、ホオジロは一年中いて腹^{はら}が茶色ですが、カシラダカは冬鳥^{ふゆどり}でやや小さめ、腹^{はら}が白く胸^{むね}にまだらもようがあります。また、ときどき冠羽(かんう)が逆立ち^{さかだ}、名の由来^{ゆらい}となっています。

一年中日本にいるホオジロ(上2枚)と、冬鳥^{ふゆどり}のカシラダカ(下)。



じゅじょうむ 樹上に多数が群れてとまるカワラヒワ。草のタネを食べる。

樹上に群れとまっている小鳥がいました。カワラヒワです。タンポポなど草のタネをよく食べます。



いっしょむ 一緒になって群れていた、シジュウカラ(上2枚)とエナガ(中3枚)、コゲラ(下左)、メジロ(下右)。

牛久城址の入口を入っていくと、たくさんの小鳥が群れ飛んでいました。が、1種類ではありません。一番多かったのはエナガで、そこにシジュウカラ、コゲラ、メジロが混じっていました。こういう群れを「混群(こんぐん)」といいます。が大勢いるのでいつも誰かしらが見はりの役割をして危険を避ける効果があるようです。



ひく えだ む 低い木の枝に群れてとまるスズメ(左)と、でんせん 電線にとまるモズ(右)。

おなじみのスズメも群れていました。どこにでもいそうですが、人家の周りにしかいないそうです。最近少なくなったそうですが、どうでしょう(研究者のデータで、この20年間に60%減少とのこと)? 電線には、モズがとまっていました。この一年はとてもよく見かけますが、増えたのでしょうか?



最もよく見られるタカの仲間、トビ(上2枚)と、ノスリ(下2枚)。どちらも自分より小さいカラスに追われてしまう。

最後にタカの仲間、トビとノスリ。トビはタカの仲間では一番よく見られ、体が大きいのですが生きた動物を襲うことは少なく、死体や魚などを主に食べるそうです。カラスにもよく追いつまわれます。

ノスリはカラス程度の大きさですが、翼を広げると大きく、それでもカラスには追いつまわれます。主にネズミなどを食べますが、3年前の冬にはみずべ公園で、大きなアオサギが襲われてほとんど骨と足だけになっているのを見ました(24年度51号)。

【理科支援員：宮内】